様式第２号（第５条関係）

平成２９年　８月　２５日

財政研究

出　張　報　告　書

栗山町議会議長　鵜　川　和　彦　　様

栗山町議会議員　　土井　道子

このたび、下記のとおり出張いたしましたので報告します。

記

１　期　　日　　平成２９年７月　６日　～　平成２９年　７月　８日まで

２　旅 行 先　　鳥取県岩美町

３　目　　的　　岩美町の特色ある学校づくり推進事業の視察及び
「第22回小さくても輝く自治体フォーラムin岩美町」に参加

４　関係書類　　別紙のとおり

栗山町議会
29.8.25
第　　号
受付

向
中
野

日　　時	平成　２９　年　７　月　７日（木）午前　9時～12時
研　修　地	鳥取県岩美町
研修　内容	特色ある学校づくり推進事業の視察
対　　応	岩美町長・岩美町教育長
内　　容	**特色ある学校づくり推進事業** 岩美町は、町内の小学校及び中学校にそれぞれが独自の創意工夫によって行う「特色ある教育活動」や「魅力ある学校づくり」に対して、一校当たり１００万円の支援をしている。 地域の環境を活かした海の子学習では遠泳や釣り体験シーカヤック・シュノーケルなどのスポーツ体験で子どもの伸びやかさを育成している。 　中学校の体育館アリーナには、郷土出身書家の清水さつき氏の揮毫で、「みずから学び　　みずから鍛え　　みんなで生きる」の文武両道の精神が校訓額として掲げられている。「生徒だけでなく保護者や地域住民にアピールした言葉が一際目を引いている。この額にかかる費用も100万円の支援から支出されている。 　また中学校の正面玄関には、各学年の授業時間割表が電子掲示板で表示され、授業時間の変更などがすぐに分かる仕組みになっている。 **少人数学級編成** 小学校及び中学校の全学年で１クラスが30人以下のクラス編成を実施して児童・生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな指導体背を確立している。この取り組みは岩美町独自の取り組みである。 　また、学校図書室には、各校に専任の学校司書が配置され、岩美町の郷土資料や分類ごとの図書がきちんと排列されて、ふるさと教育や読書教育に力を注いでいることが一目で読み取れる。 　スクールバスは、全部で5台あり小学生を各々の地区から通学し易い環境に配慮している。中学生は、部活などの関係で帰校時間が違うため、通学費を補助している。 **いのちの継承** 「あかちゃんとのふれあい体験」や「いのちの出前授業」を通じ生命の大切さやつないでいく重要性を学んでいる。保育所訪問や生涯を通じて健康で安全な生活を送ることができる資質や能力の取得をめざし学校医による「喫煙防止教室」も開催している。
感　想	特別予算を組んだことで、学校側の意欲的に授業を展開してその実績を知ることができ、また岩美町の理事者が、「教育は人づくりとまちづくりの基礎」として予算を計上している施策に目をみはるものがあった。石見町長　榎本氏は、40代で町長になり現在5期目、教育・福祉に政策の重点を置いていることが学校の施設や児童生徒の姿に垣間見られ納得できた。

日　　時	平成　２９　年　７　月　７日（金）午後１：３０ ～　７　月　８日（土）午後２：００
研修地	鳥取県岩美町・岩美町中央公民館及びジオパーク
研修内容	第22回全国小さくても輝く自治体フォーラムin岩美町
対　　応	主催　全国小さくても輝く自治体フォーラムの会 現地事務局　　岩美町企画財政課
内　　容	**記念講演** 「人口減少と田園回帰１％戦略」 講師　一般社団法人　持続可能な地域社会総合研究所所長 藤山　　浩　氏 島根県内の自治体を例に「過疎地域でも平均して人口の毎年１％定住を増やすだけで人口を安定する。 高度経済成長以降、ひたすら「規模の経済」を志向して集中型国土をつくってきた帰結は、地域社会の同時多発的限界状況となって地域社会の「使い捨て」が始まろうとしている。2010年代からバランスのとれた居住と地域に根ざした暮らしを取り戻す田園回帰の動きが全国各地で見られる。 「小さくても輝く自治体」において「小さな拠点」などを動かす運営原理は、従来軽視されてきた「0･1」・「0･3」といった一人役に満たない生産や活動を域内でつないで活かす「コンマ・X」の社会技術こそ、地元の自然や暮らしの本来的な高性を引き出し地域社会の全体的最適さをもたらすものとなる。 　自分一代のことだけでなく、高い志をもって地域社会の持続性を求めた人の記憶は、人々の心に残るものである。 **分科会　輝くパワーマンの地域創生力** 「美作市での地域おこし協力隊の里山棚田保全の活動と その後のしごとづくり」 一般社団法人上山集楽　　梅谷　真慈　氏 　総務務省の職員とのつながりから地域おこしのすばらしい助言をもらったことで、地域の高齢者や匠たちと協議を繰り返し、見事な棚田の再生に取り組んだ。 　各地で地域おこし協力隊が活躍しているが、雇用期限が定まっているので、雇い方に次のような事が重要である。 ●協力隊の仕事のバランス 　若者の中でも 　・地域が好き 　・熱い思いがある 　・稼ぎに余裕がる 　・NPOなどの職員　　でなければ難しい

	●「入れる側」「迎え入れる側」「行政」は未経験 　協力隊がけでなく、地元に住んでいる人、行政も「ヨソ者」を迎え入れて地域を活性化することは初めてでであるから、一定の人的ネットワークを持ち、相談できる人をつくることが大切である ●協力隊導入に際して必要な計画は３種類 ・地域はいつまでに・どう・なりたいか ・その地域のために協力隊は何を・どうするのか ・協力隊として、３年後はどう生活し、そのために何をしてどこまでするか ●地域に必要とされる人材になることで仕事が出てくる、信頼されるようになる ●その後の仕事づくり ・３年間で百諸仕事は一通りできるようになる ・草刈りなど請負仕事が増える ・地域内だけでなく地域外の団体にも所属して見聞を広げる仕事を始める 　岡山県美作市上山地区は奈良時代からの歴史があり、８集落で構成されている。人口165人68世帯、高齢化率37％であるが、2010年から16世帯約30人が移り住み、8300枚の棚田を再生した。 　この陰には、総務省の職員がこの地区に移り住み、移住者や地域の人たちとの交流で多様なアドバイスや情報を提供したことが、このプロジェクトの成功につながっている。 　また、トヨタモビリティ基金を活用した小型車を導入し、農林業利用、観光利用、日常生活に多大な影響を及ぼした。 **岩美町の人材** 岩美町は豪華列車「瑞風」の停車駅になっているのは、岩美町の浦富海岸に子どもの時に海水浴で訪れ、地域の人たちから暖かい表内を受けたことが社会人になっても記憶に残り、ぜひこの地に停車して美しさと地域の温かさを味わってほしいという強い後押しが新幹線の停車駅になった。 また岩美町から、日本初の国連大使澤田廉三氏を輩出し、その婦人澤田美喜氏は神奈川県大磯町に「エリザベス・サンダース・ホーム」が設立した。しかしその大磯海岸では、混血の子が海水浴を楽しむことができない環境であった。夫人は、肌の色が違う子供たちを連れて鳥取県岩美町まで海水浴に来ていた。 澤田廉三氏は、没後は岩美町の名誉町民として末永く顕彰されている。
課題・感想	小さな自治体で精力的に活動する３０～４０代の男性たちの緻密に組まれた事業の成果が素晴らしく心に響いた。 　地域づくりは、やる気だけでは進めず、人のつながり、受け入れ地域の特性、自身の企画能力など多様なバランスが大切であることを発表を通して知ることができた。地域にもどり協力隊の活躍をもっと深く知り、その意欲を大切にしていきたいと感じた。